【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
道路新設改良事業	建設部 建設課

1 次評価結果（所管課自己評価）	執行方法の改善

↓

	今後の方向性	**執行方法の改善**
外部評価結果	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・要望を受けて行っている事業である以上、事業の優先度などの基準について透明性の確保が重要であると考える。現状のままだと、予算や事業の見通しについても目標と実績のかい離が見られるため、事業の優先順位等の基準を策定し、優先度に沿った事業の執行管理と透明性の確保に努めてもらうよう、執行方法の改善を行っていただきたい。 【執行方法の改善】の意見 ・事業起因が地元要望を受け実施とあり、多様な要望があると想定される。市がリードしていくためにも、効率性を重視し要望から着手フローの見直しが必要。 ・工事の緊急性や有効性等を踏まえた優先順位の可視化が必要。 ・要望に対する優先順位や予算等の通知など、何らかの方法で各区長に対し回答すべきではないか。 ・年度内の目標値に対する当初予算の積算根拠の関連付けが弱いため、実績とのかい離が見られる。要望に対する優先度を整理し、年度内にどの路線の工事を行うか明確にすべきではないか。

↓

	今後の方向性	執行方法の改善
2 次評価結果 （最終評価）	意見	地元から要望のある市道の道路拡幅等を実施する本事業を効果的に行うため、優先路線の精査や地域性バランスを考慮し取り組まれているが、要望が事業化されず積み残しとなっている現状である。そのため、明確な優先基準や実施基準を策定し、要望者等にわかるような透明性の確保と優先度に沿った事業の執行管理を行うよう改善を求める。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
橋りょう長寿命化事業	建設部 建設管理課

1 次評価結果（所管課自己評価）	拡充して継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**拡充して継続**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・国の新しい基準を満たすよう、予算や人員を拡充してでも安全が確保できる整備に努めてもらいたい。また、補修費の拡大が考えられることから、新たな橋りょう長寿命化計画を再度策定し効率的な事業の実施かつコストの削減を図るとともに、現存するインフラのメンテナンスについて、職員及び市民に対し問題意識を共有してもらうための取り組みについて検討を求める。 【拡充して継続】の意見 ・公共施設のメンテナンスは、今後の自治体財政を圧迫する大問題となり得るが、あまり知られていない現状がある。行政内部はもちろん、市民の皆さんにも状況を理解し、問題意識を共有してもらうため、周知方法について検討すべき。 ・安心、安全なまちづくりのため、国の方針の下、十分な予算の確保、人材育成及び技術力向上に努めていただきたい。 ・専門職の人員不足を解消し、予算も拡充して事業を行うべきと考えるが、予算にも限りがあると思うので、担当課で充分に審議し事業の改善に努めていただきたい。 ・事業や予算規模は拡充だが、補修費等の拡大を少しでも抑えるために、計画の再策定による適正な事業管理をお願いする。 ・国の新たな基準に基づく判定では、多くの橋りょうの措置が必要となる可能性が高いため、積極的な事業の遂行が望まれる。橋りょうのインフラとしての重要性を鑑み、他のインフラに優先して措置を行うべきと考え、拡充して事業を行ってほしい。

↓

（次ページ）

2 次評価結果（最終評価）	今後の方向性	拡充して継続
	意見	橋りょう維持事業と同様に、老朽化した橋りょう等の道路構造物の誇張する維持管理費の縮減は喫緊な課題である。法の改正もあり、対応の転換を図らなければならなく、策定した「橋りょう長寿命化計画」も見直しが必要となっている。このような現状を打破するため、市全体で危機感と重要性を共有し、人的面や技術面、財政面において活路を見出し拡充して推進することとする。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
地域公共交通対策事業	企画経営部 企画経営課
1 次評価結果（所管課自己評価）	拡充して継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**執行方法の改善**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・事業の必要性や重要性は理解できるものの、効率的な運行による予算の削減は必要である。バス運行事業者への経営努力を促す仕組みや乗合タクシーの運行及び料金体系の見直しを検討する等、利用人員の増加やコストの削減に努めていただきたい。 【執行方法の改善】の意見 ・バス運行事業者の経営努力を把握する仕組みや業務改善のモチベーションが上がる仕組みの構築が必要ではないか。 ・誰も乗っていないバスをよく見かける。バスを小型化するなど赤字を抑制する対策が必要ではないか。 ・バス運行補助について、乗客数の増加による補助金額の縮減に対して、その一部を翌年度上乗せするなどのインセンティブを検討してはどうか。 ・乗合タクシーについて 1 回の利用につき 1,500 円程度の補助となっており、過剰なサービスと感じる。他の地域とのバランスを考えると見直しが必要ではないか。 ・乗合タクシー補助事業は、受益者負担の点から料金体系の見直し及び事業者への補助額の算定方法などの見直しを随時行っていくべきと考える。 ・乗合タクシーについては、既存バス路線に比べて利便性が高すぎると考える。交付金の算定方法の見直しが妥当ではないか。

↓

（次ページ）

	今後の方向性	執行方法の改善
2 次評価結果（最終評価）	意見	系統ごとに路線バスの経常欠損額を市が補填するバス運行事業者への補助事業については、21 系統中 20 系統に多額の補助金を毎年支出していることから、バス運行事業者に対し、更に効率化されたバス運行やインセンティブが付与される仕組みづくり等により、全体的なコスト縮減と経営努力の向上を図ることとする。また、路線バスの廃止に伴う代替の交通手段になる乗り合いタクシーへの運行補助事業については、受益者負担の原則に基づいた料金体系と補助金算定方法の見直しについて検討を求める。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
学校の支援活動事業	教育部 生涯学習課
1 次評価結果（所管課自己評価）	拡充して継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**拡充して継続**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・かなり委員の評価が分かれたが、本事業が重要であることは多くの委員が認識したところである。今後は予算や人員の確保について考慮し、費用対効果をきっちりと考えて臨んでいただきたい。 【拡充して継続】の意見 ・家庭教育の考え方など、子どもの教育を取り巻く社会の変化に対応するために、地域全体で子どもを見守ることは良い取り組みであると考え、事業を拡大していけたら良いと思う。 ・予算の範囲内で対象校を拡大していくことが望ましいが、コーディネーターの人材確保が問題である。退職予定の教職員等に早めに相談しておく等の対策が必要。 ・費用対効果を充分精査した事業執行を望む。また、教職員と協議を図りこれまで以上の成果となるよう今後に期待する。

↓

2 次評価結果 **（最終評価）**	今後の方向性	拡充して継続
	意見	平成 19 年度から将来的な拡充を目指しモデル事業として国・県補助金を財源に、玉名中学校区の 4 小中学校の教職員が行うドリル丸付け等の学校からの要請に応じ、支援員を派遣する事業が現在まで続いている。また、今年度県の事業として統括コーディネーターを配置し、学校と地域の更なる連携を図る取り組みが始まったところでもあるため、玉名中学校区以外の学校についての拡充について検討を求める。ただし、コーディネーターの人材確保や費用面等については課題があり、また、導入による成果が十分認められる場合に限り、拡充の検討を行うこととする。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
音楽の都づくり事業	教育部 文化課
1 次評価結果（所管課自己評価）	拡充して継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**執行方法の改善（委員長採決）**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・「音楽の都づくり」を目指しているというイメージがあまりないため、イメージづくりが必要と考える。また、対外的な取り組みの周知も重要である。取り組み内容と主旨が一致しないものもあるため、きちんと関連付けされた取り組みを実施するためにも、次期計画をしっかりとしたものにして事業を推進してもらいたい。 【執行方法の改善】の意見 ・各事業が「音楽の都」の周知に繋がっているか疑問である。説明にあった推進強化対策検討業務については、とりあえず事業を羅列したように見える。事業の在り方について抜本的に検討した方が良い。 ・タマにゃんを含め市民の認知度があまりない。取り組みを全国的に知ってもらえるように、一体感を持った事業の推進に努めていただきたい。 ・地域内活動だけではなく、市外の PR にもう少し力を入れるべきではないか。 ・政策推進ビジョンに基づき、今まで行ってきた事業の位置づけを整理すべきと考える。

↓

（次ページ）

<table>
<tr><td rowspan="2">2 次評価結果
（最終評価）</td><td>今後の方向性</td><td>執行方法の改善</td></tr>
<tr><td>意見</td><td>平成 25 年 3 月に作成した政策推進ビジョンに基づき、文化課が中心となり全庁的な取組として様々な事業が展開されているが、まだ「音楽の都づくり」の機運の高まりがあまり感じられない。今年度新たな政策推進計画を策定することとなっているが、現行の政策推進ビジョンに掲げる取組内容については、「音楽の都づくり」の趣旨とは一致しない部分もあるため、再度「音楽の都づくり」を推進するためのビジョンを明確化し、効率的かつ効果的な取り組みの実施について検討を求めるとともに、音楽の都玉名を実現するうえで重要な課題である民間主体となる推進体制の構築についても引き続き検討を求める。また、市民会館の落成式とタイアップした音楽イベントの開催についても今後検討を求める。</td></tr>
</table>

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
定住促進事業	企画経営部 企画経営課

1 次評価結果（所管課自己評価）	執行方法の改善（民間活用）

↓

外部評価結果	今後の方向性	**執行方法の改善（委員長採決）**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・ターゲットを絞った事業の実施や民間のコーディネーター等の活用によるきめ細やかなフォローアップについて検討を進めていただきたい。また、定住相談会については、相談者増加に向けもっと広く対象者に周知することが望ましい。行政が実施することによる信頼性や有効性の確保、民間が実施することによる個別・具体的なアプローチ方法等相乗効果が生まれるような業務の住み分けを行ったうえで、民間活力を適切に取り入れ事業を進めていただきたい。 【執行方法の改善】の意見 ・人口増加はまちの活性化のために最も重要なので拡充して実施すべきだが、現状の方法だと漫然と実施しているイメージがある。ターゲットを明確にして、より効率的な PR 方法などの戦略を構築すべき。 ・定住相談会での相談件数が増えるような工夫が必要ではないか。また、雇用の確保も含めて定住促進を図っていただきたい。 ・定住相談会にもっと参加すべき。また、移住コーディネーター等の活用について、実施に向けて動いてほしい。 ・玉名での暮らしについてもっと PR してはどうか。

↓

2 次評価結果 **（最終評価）**	今後の方向性	民間の活用を検討
	意見	定住促進することで人口増加を図ることは、地域の活性化が図られ、人口減少の歯止めにも効果がもたらされる重要な取組である。今後は、対象者をより明確にした戦略的で効率的な事業や、効果的な PR 方法などの事業展開について検討を求める。また、民間のコーディネーターを登用した都市圏での移住相談や定住後のフォローアップ等の実施について検討を求める。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
農業振興・支援事業	産業経済部 農林水産政策課
1 次評価結果（所管課自己評価）	現状のまま継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**執行方法の改善（委員長採決）**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・補助金支出業務については、精査を行い適正な支出となるよう努めていただきたい。これは本事業に限らず全庁的に取り組むべき課題である。また、農家の所得向上や後継者・担い手の育成等について、現在策定中の基本計画を今後どのように活かしていくかが重要と考える。その中で今後玉名の農業の在り方を議論し、明確なビジョンを描いたうえで玉名の農業の将来を考えていただきたい。 【執行方法の改善】の意見 ・補助金については、全庁的に見直しが必要。 ・補助事業については、交付の在り方（基準等）について明確にする必要がある。 ・現在策定中の基本計画において、玉名の農業の現状、課題、在り方を議論していただき、目標数値の設定とそれを実現するための施策の検討に期待します。 ・現在の玉名の農業を守ることは非常に大切なことだと思うが、農家の育成や経営の安定化、所得の向上に着目した新しい取り組みや、違う視点からの施策も重要ではないか。

↓

（次ページ）

	今後の方向性	執行方法の改善
2 次評価結果（最終評価）	意見	農業振興関連団体の弱体化による地域農業の衰退が懸念されるため、事業としては継続する必要があるものの、外部評価結果を踏まえ、農業振興関係団体への負担金・補助金について、交付基準等のあり方を明確にし、決算等の精査による負担金・補助金の活用状況のチェックを行うなど、適正な支出への見直しを求める。また、食料・農業・農村基本計画について、市の基本計画として未策定だったことを踏まえ、現状、課題、今後のあり方等を明確にビジョン化し、農業者の所得向上や後継者・担い手の育成等といった課題の実現に向けた目標値の設定や施策の検討が期待されており、実効性のある基本計画策定を求める。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
企業誘致促進事業	産業経済部 商工政策課

1 次評価結果（所管課自己評価）	現状のまま継続

↓

外部評価結果	今後の方向性	**拡充して継続(委員長採決)**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・各委員からの意見の中で、民間企業や熊本県選出の国会議員との情報交換や連携、誘致用の土地の確保や優遇措置の拡充といった意見があった。また、調査研究機関や官公庁の誘致、地元の若者の起業支援等も視野に入れ、今までのやり方から角度を変えた取り組みを検討していただきたい。 【拡充して継続】の意見 ・行政と商工会議所との連携や熊本県選出の国会議員からの情報収集等、あらゆる手段を行使し事業を促進していただきたい。 ・本事業はとても大切な事業である。誘致用の土地の確保や優遇措置等を拡充して事業を続けてほしい。 ・市の人口増加策として必要な事業である。企業のみならず官公庁も地方に移っているため、様々な対策を検討し事業を行っていただきたい。

↓

2 次評価結果 （最終評価）	今後の方向性	拡充して継続
	意見	平成 28 年 4 月の熊本地震により、事業活動に支障が出ているものの、企業誘致は、雇用の創出や定住人口の増加、税収の確保など地域経済や地域の活性化に大きな影響を与える事業であるため、外部評価結果等を踏まえ、最大の問題である、誘致可能な用地がほとんどないという状況に対する抜本的な対策として、学校再編事業により廃校となる学校跡地を活用した工業団地の造成やインフラの整備について再検討を求める。また、今までのやり方から角度を変えた取り組み例として、これまで誘致対象としていない国の官公庁や調査機関等の誘致や、他係で取り組んでいる若者等の事業者の起業に対する優遇措置等での追加支援といったものも視野に入れて、玉名市に合った手法の検討を求める。

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
6次産業推進事業	産業経済部 ふるさとセールス課

1 次評価結果（所管課自己評価）	執行方法の改善

↓

外部評価結果	今後の方向性	**現状のまま継続**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・市民への周知が少ないので、市内でもっと知名度が上がる取り組みが必要と考える。それにより、新規の 1 次産業者の参入にも繋がっていくのではないか。消費者ニーズや成功例、事業の流れや問題点の整理をし、事業者の手助けとなるよう事業を継続していただきたい。 【現状のまま継続】の意見 ・参入開始から成功までのプロセスにおいての課題点・問題点を整理し、そこを手助けできるための流れを把握すべきと考える。これまでの事例の整理もしてほしい。 ・経営の安定化のため、ふるさと納税返礼品等の収入確保策について検討してみてはどうか。 ・市民に周知することも大事だと思うので、いろんな場面や商店で商品が購入可能な環境を整える必要がある。 ・1 次産業者が 6 次産業事業者として自立できる施策の検討をお願いしたい。 ・素晴らしい商品がたくさんあり、今後も事業を継続しヒット商品を作ってほしい。ただし、このような商品があることを初めて知ったので、市民への周知もお願いしたい。 ・所管課が本事業に熱意を持って取り組んでいることが伝わった。一部の業者が優遇されることがないように育成に力を入れていただきたい。今まで通り市のイニシアティブを強めて、商品加工や販路拡大に努めてほしい。

↓

（次ページ）

<table>
<tr><td rowspan="2">2 次評価結果
（最終評価）</td><td>今後の方向性</td><td>現状のまま継続</td></tr>
<tr><td>意見</td><td>販路開拓により、開発された商品は一般流通市場等に乗り始めており一定の成果を上げている。
しかし、今後の課題として、事業者の所得向上対策や、市民の認知度不足について、外部評価においても指摘されており、所得向上対策としては、勉強会、研修会を通じた事業者のスキルアップを支援しつつ、商品のブランド化による高付加価値化を図っていくこと、市民の認知度不足については、販売会や試食会の開催、商品が購入可能な環境の整備を継続していくことが必要であり、それによって、新規の事業参入者の増加につながると見込まれるため、現状のまま継続する。</td></tr>
</table>

【様式6】

平成28年度

外部評価対象事業最終評価表

事務事業の名称	所管部署
イベント誘客事業（※玉名大俵まつり）	産業経済部 ふるさとセールス課

1 次評価結果（所管課自己評価）	執行方法の改善（民間活用）

↓

外部評価結果	今後の方向性	**執行方法の改善**
	外部評価委員会 評価理由・意見等	【総括】 ・事務局機能について、民間の力をもっと活用することで新たな発想が多く生まれる可能性があり、参加者の増加も見込まれるため、今後も民間活用を進めていただきたい。また、市民のための祭りなのか、市外からの誘客を狙った祭りなのかコンセプトをはっきりさせ、市外はもちろんのこと、市民に対するPRを強化し、市民全体で盛り上げる祭りとして定着させることも重要である。 【執行方法の改善】の意見 ・行政が事務局機能を担い続けるには限界が感じられる。実行委員会形式をとっているのであれば、商工会や観光協会等に事務局機能を移す等の民間活用を検討することに賛成。 ・民間活力によりアイディアが多く出る印象があるため、事務局機能の民間への移管を望む。 ・市民が積極的に参加することができるような、魅力ある祭りにしてほしい。 ・行政に頼らない祭り考える必要がある。県外ばかりではなく、市民がもっと関心が持てるよう市内へのPRをお願いします。

↓

2 次評価結果 （最終評価）	今後の方向性	民間の活用を検討
	意見	本事業の問題となっている、「玉名大俵まつり」や「高瀬裏川花しょうぶまつり」、「草枕ウォーキング」といったまつりに対するマンネリ化による集客力の低下を改善していくのに、これまでの、各まつりの実行委員会への指摘とアドバイスといった働きかけや提案を継続することはもちろん、これまでの行政主導から転換して、民間活用をもっと図って、新たな発想を取り込んでいく必要があるため、平成 31 年度目途に原課で検討している「玉名大俵まつり」事務局移管による民間委託を早期に実施し、また、他のイベントにおいても、同様の検討を求める。